

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

2025年12月号 vol. 174

緩和ケアチームメールアドレス： kanwa@tajimi-hospital.jp

自施設での緩和ケアに関する悩みごと、県病院緩和ケアチームに対する意見や要望、施設ごとでのオンライン事例検討や勉強会などの開催要望など、なんでもお寄せ下さい。



～ チームメンバーより一言 ～

がん性疼痛看護認定看護師・大津 陽子



～看護師 23年目の思い・つぶやき～

皆さんこんにちは。緩和ケアチームメンバーの看護師大津です。と申しましても緩和ケア病棟看護師と兼任しています。その為活動の場は主に緩和ケア病棟となっており皆様にお目にかかれるのは緩和ケア病棟で…ということになります。

今回は看護師 23年続ける中で私が座右の銘としている言葉をご紹介します。ズバリあの国民的ヒット曲の「NO.1にならなくてもいいもともと特別な Only one」のフレーズです。占いによると私は男性だった場合、出世欲の塊であったそうです（笑）そして実際小学校の頃の夢は「キャリアウーマン」。そんな時代を乗り越え今があります。今は元気が無くなったというか、落ち着いたというのでしょうか。仕事では症状緩和に徹し「辛い症状が取れると良いな」とか「何か笑顔になる時間があると良いな」と思いながら細々と看護を続けています。表情がこわばっていた患者さんの笑顔を一瞬でも見られた時・表情が和らいだ時を一緒に過ごせることはこの仕事の醍醐味だと感じています。私の疲れも吹っ飛びます。そうそう出会える瞬間でも無いと思います。全世界の患者さんに出会うことは出来ませんがこれからも出会う患者さんは私の中の「特別」です。どうぞよろしくお願い致します。

「勤務中は全力で看護し休日は全力で休む」これもまた続けていきたいです。今の目標は「自重で背筋が出来る」です。女性で「自重で懸垂が出来る」ってカッコよく無いですか!?28歳のトレーナーさんを師匠とし教をを請い、二人三脚で頑張っています。



管理栄養士・岩瀬 優里

私事です、今年初めて親知らずを抜く経験をしました。抜歯後は鏡を見て思わず笑ってしまうほど顔が四角く腫れ、腫れが引くまでの数日間は「痛み」と「食べたい」という気持ちとの闘いでした。いつも食べているものが食べられない悲しさを感じつつも、食い意地の張っている私は痛みがあろうと「どうにかして何かを食べたい」という思いが強く、茄子の皮をむいて煮浸しにして食べました。これまで何度も食べてきた茄子なのに、その時はいつも以上に美味しく感じ、神食材!!!と茄子に感謝したほどです。

入院患者さんにも痛みが強く食べられない方はいらっしゃいます。痛み以外にも味覚異常や匂いで吐き気がするといった食べられない要因は様々です。そういった患者さんと関わると、食べたい気持ちはあるけれど食べられないという苦悩を感じます。様々な要因で食べられない患者さんも、お話を聞きながら食事調整をし、食べられるようになった時の表情は本当にこやかで、その度に食べる事の大切さや食べる事の楽しさを実感しています。

入院という普段とは違う環境でも食事は日常に一番近い部分だと思います。「食べられた時の喜び」や「食べられた時の笑顔」を引き出せるように患者さんにとっての最適な食事を一緒に考えていければと思います。

